

# 小学校体育科における手軽で簡単な動画ポートフォリオを活用した授業改善

兵庫県川西市立陽明小学校 岸 敬三

## 1. 研究のねらい

近年、体育学習においては、デジタルビデオなどを用いて、児童の実技を蓄積することによって分析し、学習指導の中で、児童の伸びや課題を見つけることに活用する取り組みが行われるようになってきた。日常の体育学習の中で、児童の実技映像である動画を蓄積して、動画クリップ形式の学習ポートフォリオ（動画ポートフォリオ）を作成し、その活用を図ることは有効であると考えた。

しかし、事前のビデオ撮影のための環境構築や事後の編集作業などに多くの労力を必要とし、教師の負担が大きいので、日常的な評価や学習指導として活用することが少ない。

そこで、本研究では、動画撮影可能な無線 LAN 通信機能付きデジタルカメラと無線 LAN、そして、USB メモリ（以後、USB 学習帳と呼ぶ）を活用して、少ない労力や準備作業で、どこでも、誰でも簡単に、動画ポートフォリオを活用した評価や学習指導ができるようにした。

USB メモリには、通信サーバ機能と学習記録映像の自動収集・蓄積機能を持つ USB 学習帳を搭載している。したがって、パソコンに装着するだけで、いつでもどこでも無線 LAN 通信が可能になり、動画ポートフォリオを蓄積し、活用することができる。

## 2. 企画の実際

小学校 5 年生の体育科「ハードル走」の授業において、毎授業の終わりに、30 秒程度の動画クリップを撮影可能な無線 LAN 通信機能付きデジタルカメラを使って、児童たちがお互いの実技を撮影しあい、無線 LAN 環境を通じて、パソコンに送信し、児童一人一人の動画ポートフォリオとして USB 学習帳に蓄積した。そして、授業後、教室において、USB 学習帳をグループで閲覧し、自己評価や相互評価を行い、次時の学習のめあてを見つけ合った。

このような学習の振り返り活動は、児童が自分のめあてを明確に持ち、技能や記録を高めることに有効であった。また、自分の学習記録映像を動画ポートフォリオとして蓄積することで、自分の進歩や成長が確認でき、意欲や達成感も高まった。さらに、教師は、手軽で簡単な動画ポートフォリオを活用することによって、児童一人一人の成長や学習過程を評価しながら、適切な支援ができた。

## 3. 研究の成果と課題

- これまで蓄積することが難しかった屋外で学習する領域において、手軽に簡単に動画ポートフォリオを蓄積し、活用することができるシステムが実現した。
- 児童は自分の実技を客観的に見ることができるので、よいところや修正するところに気づき、自分なりのめあてをもちながら意欲的に学習できた。
- 上達する姿が目に見える形で残っていくことで、児童の達成感や学習意欲の向上に結びついた。
- 教師は動画ポートフォリオを作成するために多くの労力を費やすことなく、動画ポートフォリオの閲覧にじゅうぶん時間を費やすことができるので、児童一人一人の成長やつまづきがわかり、適切な支援ができた。
- 毎授業後、振り返りの授業時間が必要となり、体育の時数を圧迫することになった。児童にとっては、振り返りの時間を十分確保することが大事なので、単元の中で、必要な振り返りの時間を設定する、あるいは教師が必要と思うときに振り返り学習をおこなうなど、指導計画を工夫する必要がある。



図1 デジタルカメラで撮影



図2 USB 学習帳の動画閲覧ページ



図3 USB 学習帳の閲覧